

7月の災害教訓カレンダー

日	災害	教訓
1	2004年 酷暑(長期)九州、中国、近畿～北海道東京、山梨などで観測史上1位の最高気温を記録。死者11名。	
2		
3	1938年 阪神大水害(7/3～5) 梅雨前線が、北上して来た熱帯性低気圧に刺激されて、各地に大雨を降らせた。死者・行方不明者 925名。	
4	1954年 大雨(前線) 中国、近畿 死者、行方不明者 442名。	
5	1972年 繁藤災害 追廻山が集中豪雨で断続的に崩壊。最初の小崩壊で巻き込まれた消防団員を捜索していたところに大規模な崩壊が襲った二次災害。60名が死亡。	二次災害の発生。消防団員等、現場で危険を察知し判断することの重要性
6	1350年 京都で地震 M6、祇園社の石塔の九輪が落ち砕けた。余震が7月初旬まで続いた。	
7	1967年 昭和42年7月豪雨(7/7-10) 九州北部～関東 佐世保市で1時間雨量 125mmを観測。死者、行方不明者 371名。	
8	1946年 はんぺん中毒事件 電鉄会社従業員や工場作業員に、配られたはんぺんによる食中毒が発生。この年食中毒事件が頻発、年初から7月10日までに死者 203名に及んでいた。	
9	1854年 伊賀上野地震 M7クラスの地震。被害は震源に近い伊賀国から奈良、大和郡山にかけての地域で特に大きかった。死者1308名。	
10	1976年 セベソ事故 ダイオキシン類の暴露事故としては大規模なものとなった。	平成11年、ダイオキシン類対策特別措置法の制定
11	1979年 日本坂トンネル火災事故 トンネル内でトラック4台、乗用車1台の追突事故により火災が発生。死者7名、焼失自動車数173台。	事故の発生を知らずに進入した車両が多く、事故規模を大きくした。そこで、トンネル情報板が1カ所ずつ増設された。
12	1993年 北海道南西沖地震死者・行方不明者 230名。日本海の広い範囲に津波が押し寄せ、中国地方でも高いところで2-4mの津波があった。	津波警報が間に合わなかったこと、津波の高さについて誤った解釈した住民が多かったことを受け、気象庁やNHKでは、津波情報の迅速化、予報文の大幅な変更がなされた。
13	1959年 台風5号、前線 九州北西部で雨量が多く、期間中の雨量が各地で400mm前後を記録した。死者、行方不明者 60名。	
14	1964年 品川勝島倉庫爆発火災 無許可貯蔵されていた、大量の危険物が原因で自然発火し次々と爆発。消防職員18人、消防団員1人が殉職した。	この火災の前月にも新潟で危険物火災があり、消防法及び消防組織法の一部が改正された。
15	1943年 旅客船浦戸丸衝突沈没事故 瀬戸内海を航行中、貨物船聖山丸と正面衝突し沈没。死者・行方不明者 223名。	
16	1953年 昭和28年南紀豪雨(7/16～25) 和歌山県民の4分の1の26万2000人が被災。全国で死者713名。	
17	2004年 平成16年7月福井豪雨 九頭竜川水系の、足羽川や清滝川など9カ所で堤防が決壊。死者・行方不明者 5名	同じ九頭竜川水系の真名川は、ダムでの洪水調節機能が有効に発揮され、浸水被害は起こらなかった。
18	1952年 吉野地震 M6.7 和歌山・愛知・岐阜・石川各県にも小被害があった。	
19	1941年 昭和16年東日本豪雨 東京で3昼夜大雨が降り、東京近郊で家屋7万6000戸が浸水。全国で死者・行方不明者 98名。	
20	1983年 昭和58年7月豪雨 梅雨期間中に中国地方西部で局地的な集中豪雨が発生。死者112名。	
21	2001年 明石花火大会歩道橋事故 歩道橋内にて群衆雪崩が発生。死者11名(10才未満9名、70才以上2名)	警備体制が問題視され、警備業法と国家公安委員会規則が改正された。
22	1943年 昭和18年梅雨前線+台風12号豪雨 ほとんど休みなく82時間余も降り続き、宮崎、愛媛、広島、岡山各県で大雨となった。死者、行方不明者 240名。	
23	1989年 なだしお事件 海上自衛隊の潜水艦「なだしお」と遊漁船が横須賀港沖で衝突。乗客39名、乗員9名のうち死者30名。	
24		
25	1957年 諫早豪雨 雲仙岳の北斜面にあたる南高来郡瑞穂村西郷で、日降水量が1109mmを記録した。死者、行方不明者 992名。	
26	2011年 平成23年7月新潟・福島豪雨(7/26～30) 1時間に100ミリ前後の猛烈な雨がほぼ同じ場所で降り続いた。死者6名。	
27	1924年 大礼丸衝突沈没事故 濃霧のため貨物船と衝突し沈没。死者・行方不明者 175名。	
28	1889年 明治22年熊本地震 M6.3の直下型地震。熊本県庁では地震発生の日以降、余震回数を記録、これが日本での余震記録の先駆けとされている。	
29		
30	1971年 全日空機雲石衝突事故 旅客機と自衛隊のジェット戦闘機が衝突。乗客155名と乗員7名の計162名全員が死亡。	航空路監視レーダー(ARSR)の導入、空中衝突防止装置(TCAS)の装着が航空法で義務づけられた。
31	1978年 平成5年8月豪雨(7/31～8/7) 梅雨前線、低気圧の通過や台風の接近にともなって大雨災害が発生。鹿児島県で死者71名。	